



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	現代社会と心の悩み：自殺問題を中心に
Author(s)	吉岡，英治
Relation	「SW2010オープニング行事 北海道大学「持続可能な発展」国際シンポジウム：ひとり一人がすこやかに人間らしく生きる社会を目指して：わたしたちが直面する危機の原因を包括的に探る」分科会4：高齢社会の健康と介護：幸せとは？. 平成22年10月26日(火). 北海道大学学術交流会館，札幌市.
Issue Date	2010-10-26
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/44368
Type	conference presentation
File Information	yoshioka.pdf



現代社会と心の悩み —自殺問題を中心に—

吉岡英治

北海道大学大学院医学研究科

公衆衛生学分野

本日の講演内容

- 1. 自殺の統計：日本の現状**
- 2. 統計からみる自殺死亡者の背景**
 - － 1998年の自殺死亡者急増に関して
- 3. 日本の自殺対策**
- 4. 海外との比較**
- 5. 考察**

厚生労働省発表

平成20年人口動態統計 死因順位

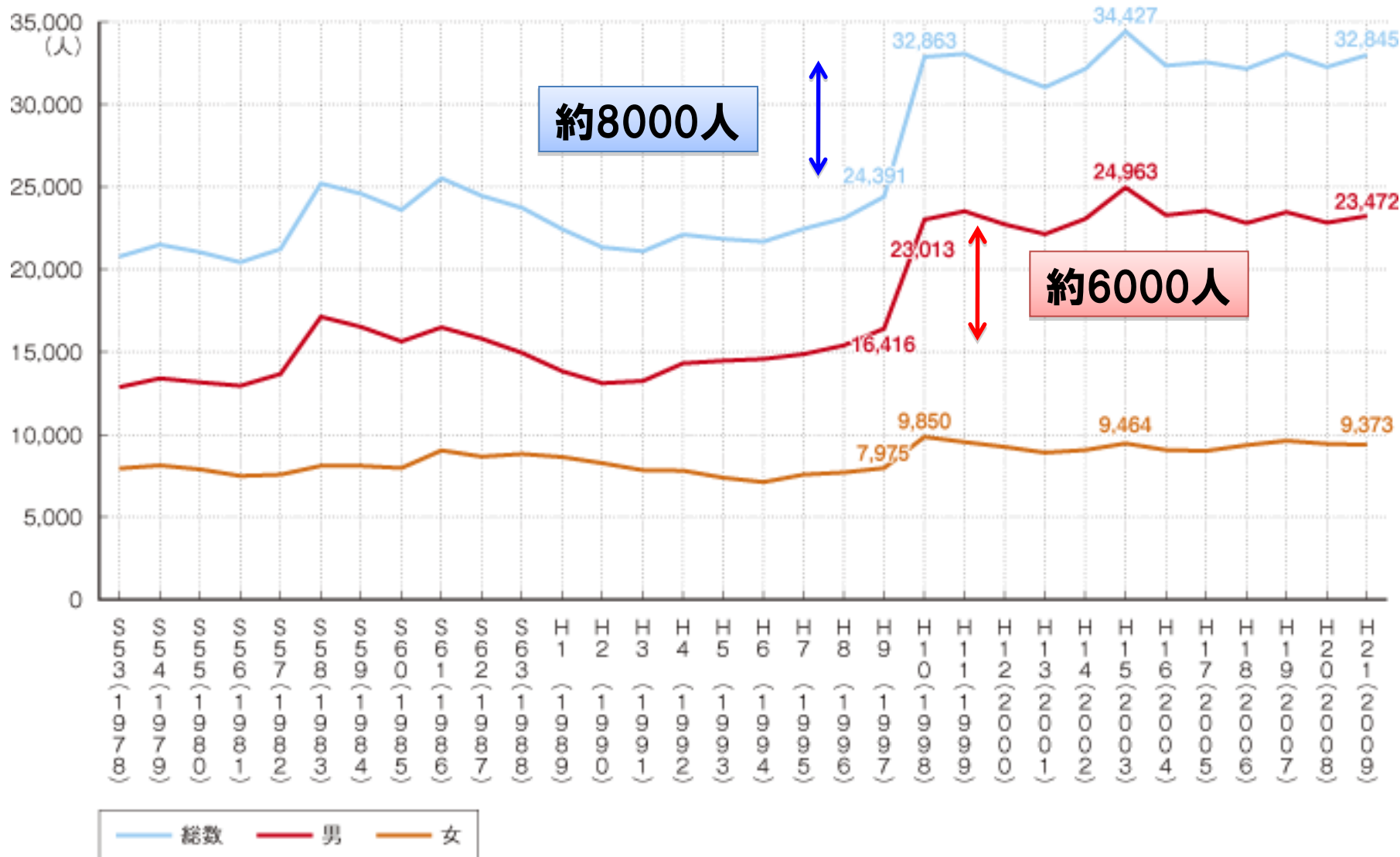
順位	死因	死亡数	全死亡率 (10万対)	男性	女性
	全死因	1 142 467	907.1	991.0	827.2
1	悪性新生物	342 849	272.2	335.8	211.6
2	心疾患	181 822	144.4	140.1	148.4
3	脳血管疾患	126 944	100.8	99.4	102.1
4	肺炎	115 240	91.5	99.8	83.6
5	不慮の事故	38 030	30.2	37.0	23.7
6	老衰	35 951	28.5	14.2	42.2
7	自殺	30 197	24.0	35.0	13.4
8	腎不全	22 491	17.9	17.0	18.7
9	肝疾患	16 229	12.9	17.2	8.7
10	慢性閉塞性肺疾患	15 505	12.3	19.4	5.5

性別年齢別死因第1位

(厚生労働省平成21年度人口動態統計)

男性			女性		
年齢	死因第1位	自殺順位	年齢	死因第1位	自殺順位
0	先天奇形など		0～4	先天奇形など	
1～9	不慮の事故		5～9	悪性新生物	
10～14	不慮の事故	3	10～14	悪性新生物	3
15～19	不慮の事故	2	15～34	自殺	
20～44	自殺		35～49	悪性新生物	2
45～49	悪性新生物	2	50～54	悪性新生物	3
50～59	悪性新生物	3	55～64	悪性新生物	4
60～74	悪性新生物	4～7	65～74	悪性新生物	5～7
75～	悪性新生物		75～	悪性新生物	

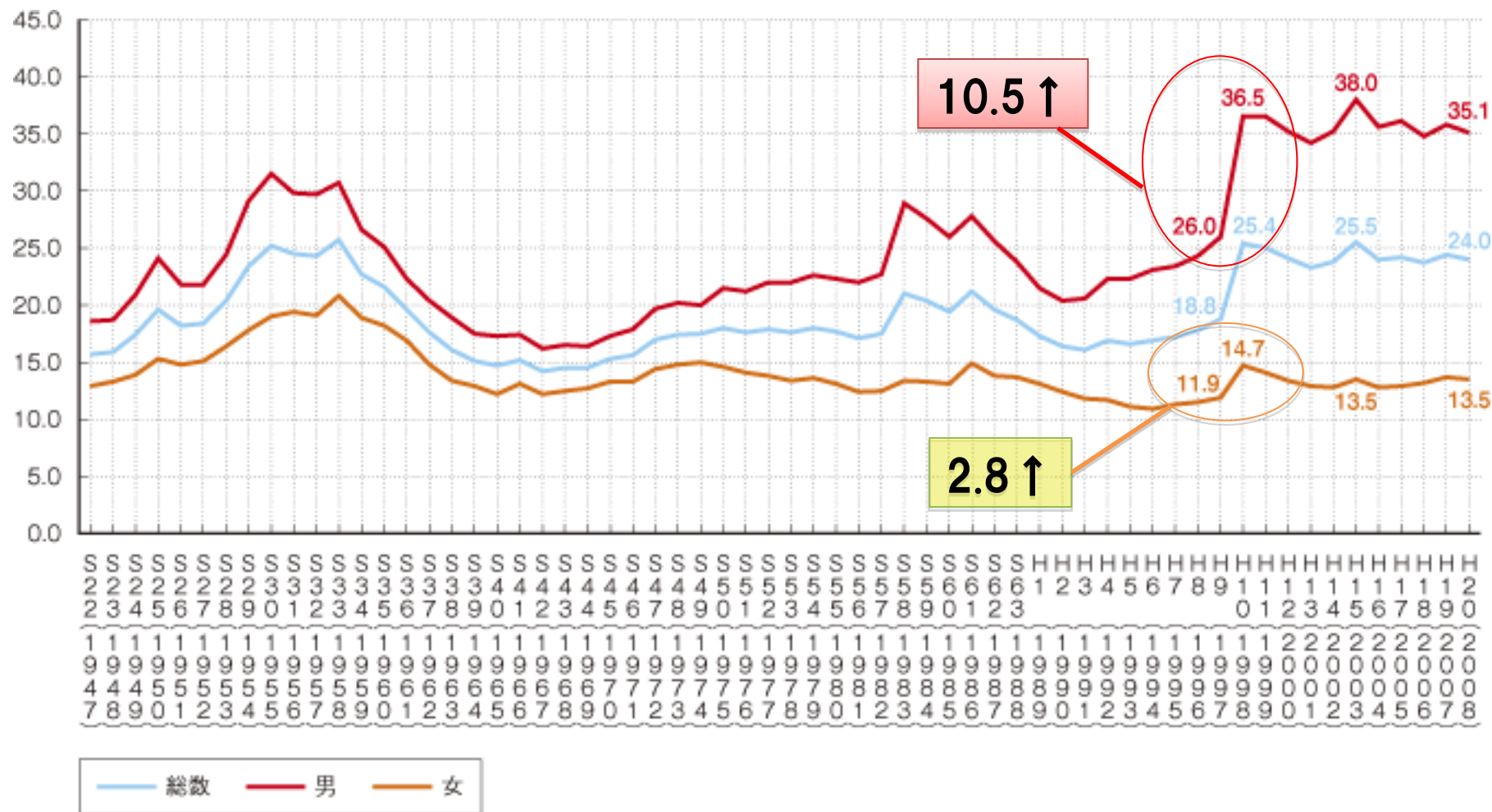
年間自殺数年次推移



警察庁「自殺統計」より内閣府作成：平成22年度版自殺白書

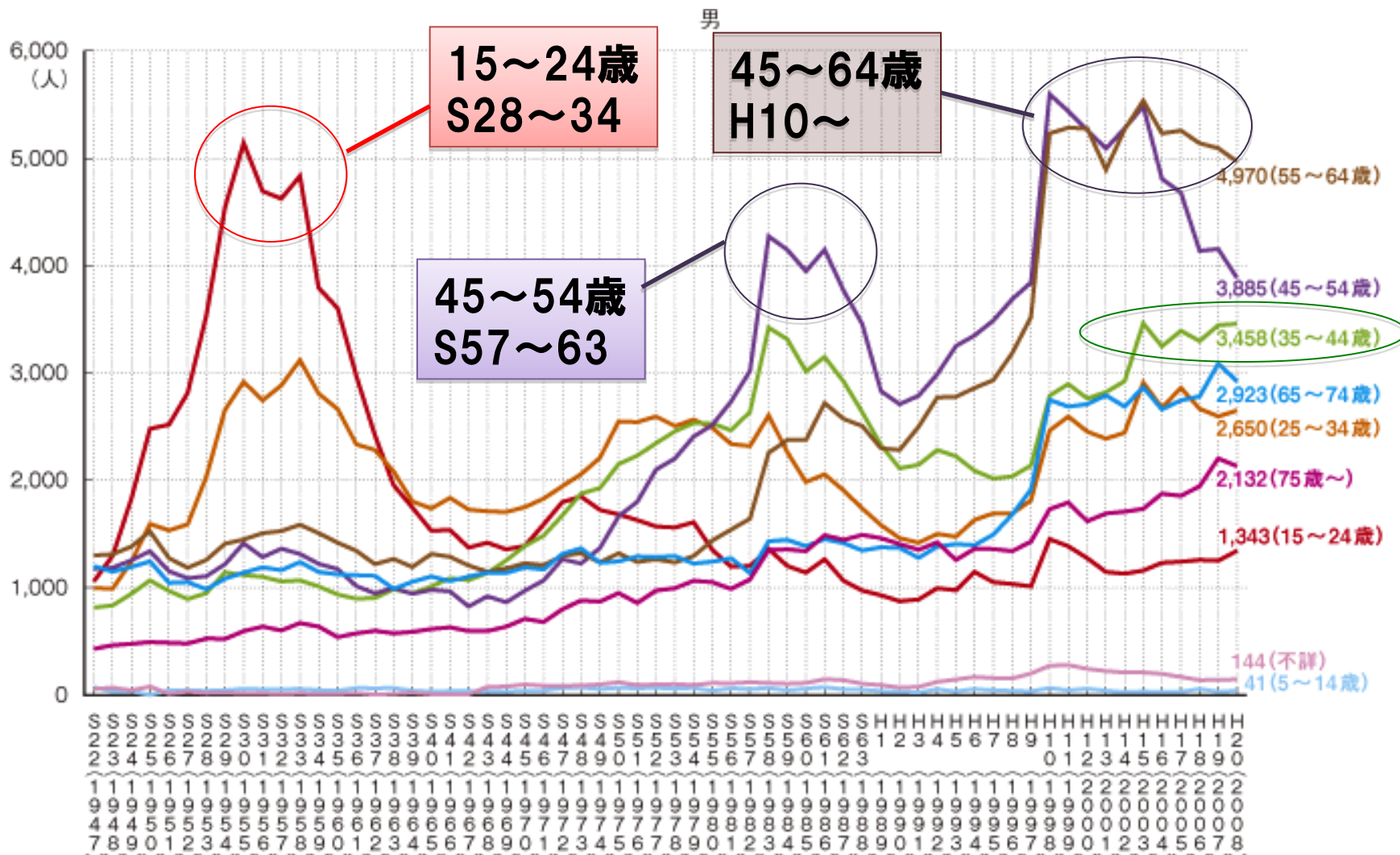
自殺死亡率の長期的推移 (1947～2008)

10万人あたり



厚生労働省人口動態統計より:平成22年版自殺白書

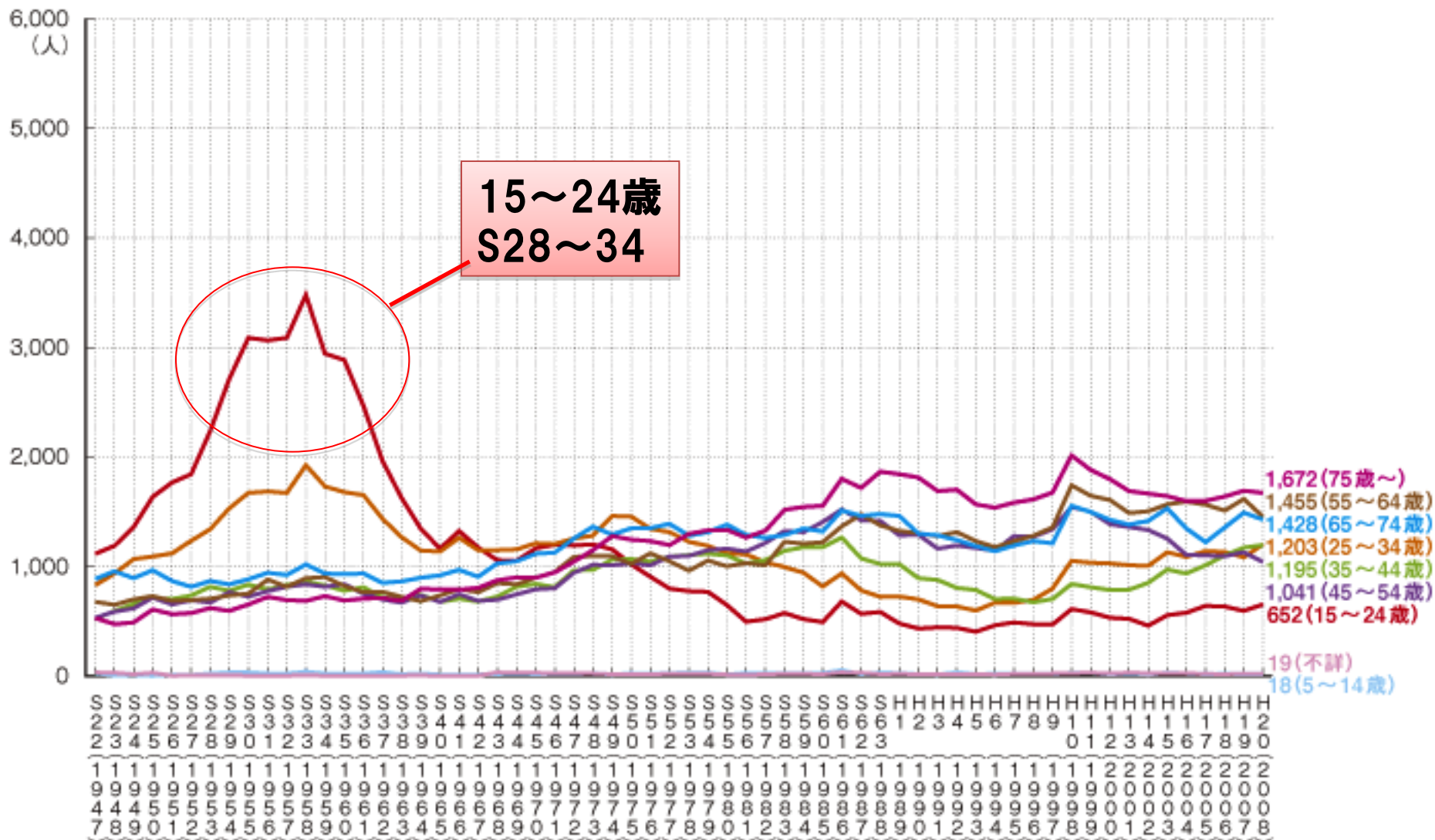
年齢階級別自殺率の長期的推移(男性)



厚生労働省人口動態統計より:平成22年版自殺白書

年齢階級別自殺率の長期的推移(女性)

女



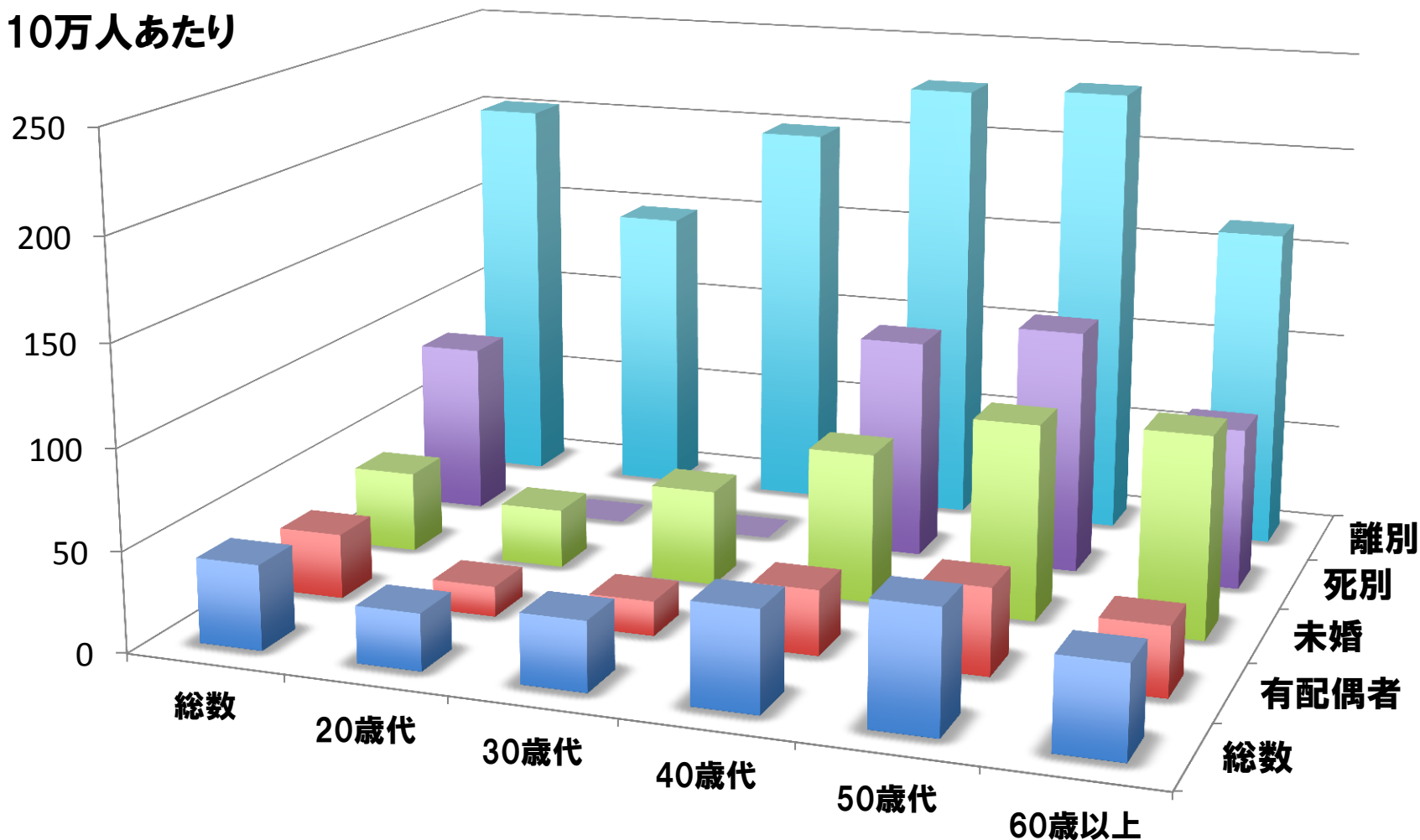
厚生労働省人口動態統計より:平成22年版自殺白書

統計からみる自殺死亡者の背景

- 配偶関係別
- 職業別
- 原因、動機別

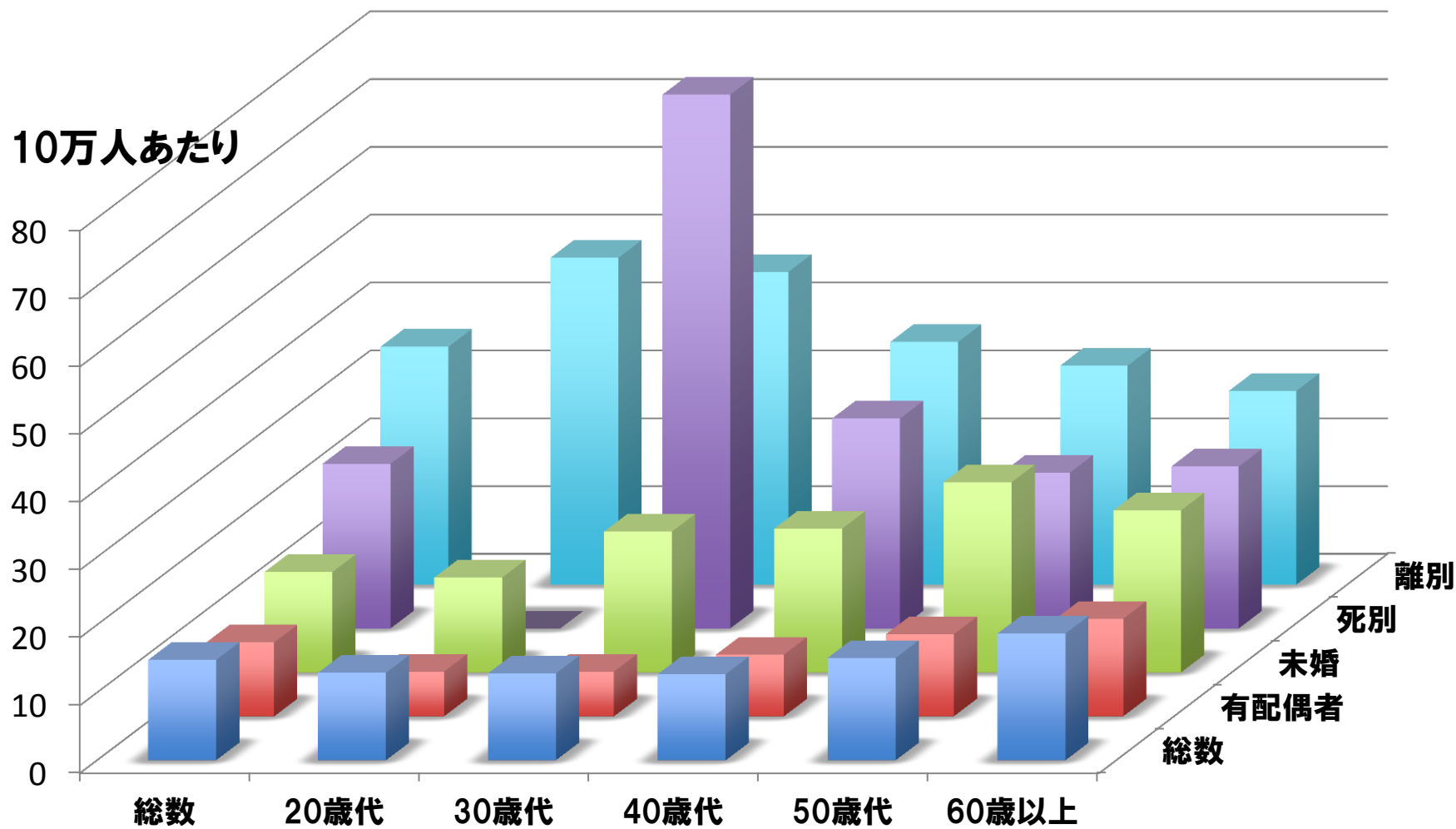
平成17年における配偶関係別の自殺死亡率 (配偶関係別人口10万人当たり)の状況(男性)

10万人あたり



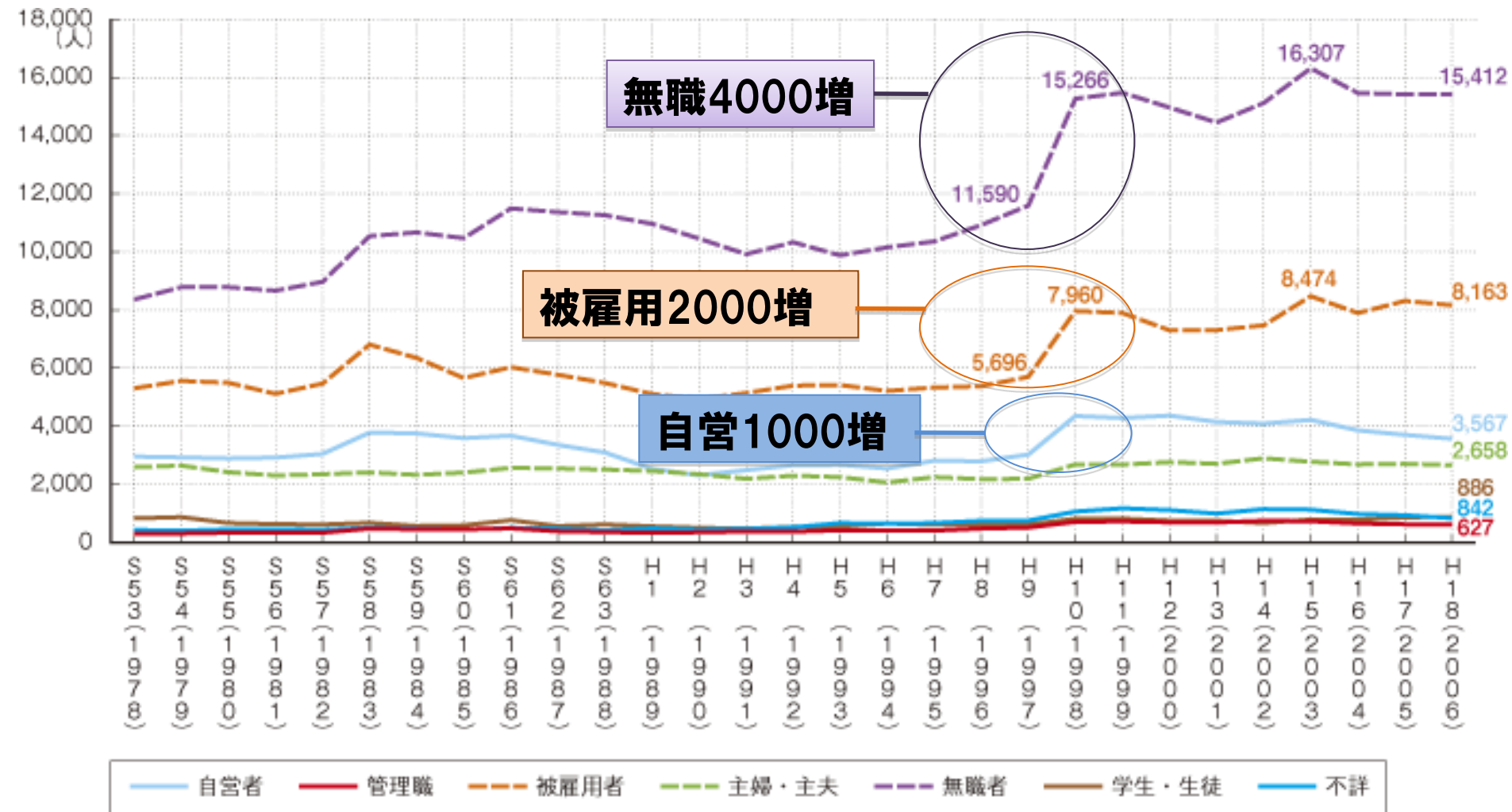
厚生労働省人口動態統計より:平成22年版自殺白書

平成17年における配偶関係別の自殺死亡率 (配偶関係別人口10万人当たり)の状況(女性)



厚生労働省人口動態統計より:平成22年版自殺白書

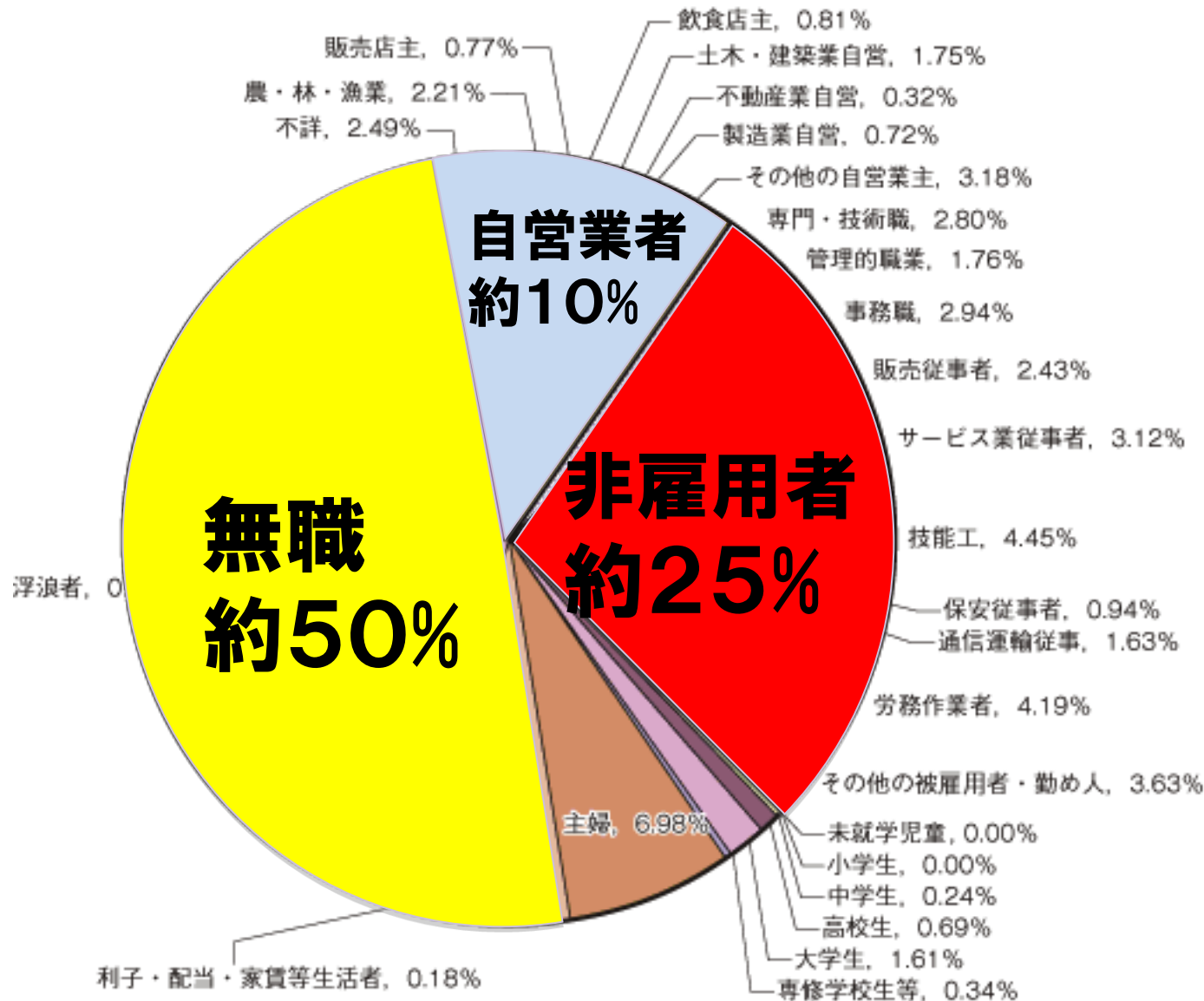
職業別の自殺者数の推移



※「主婦・主夫」については、平成11年までは主婦（女性）のみを計上している。

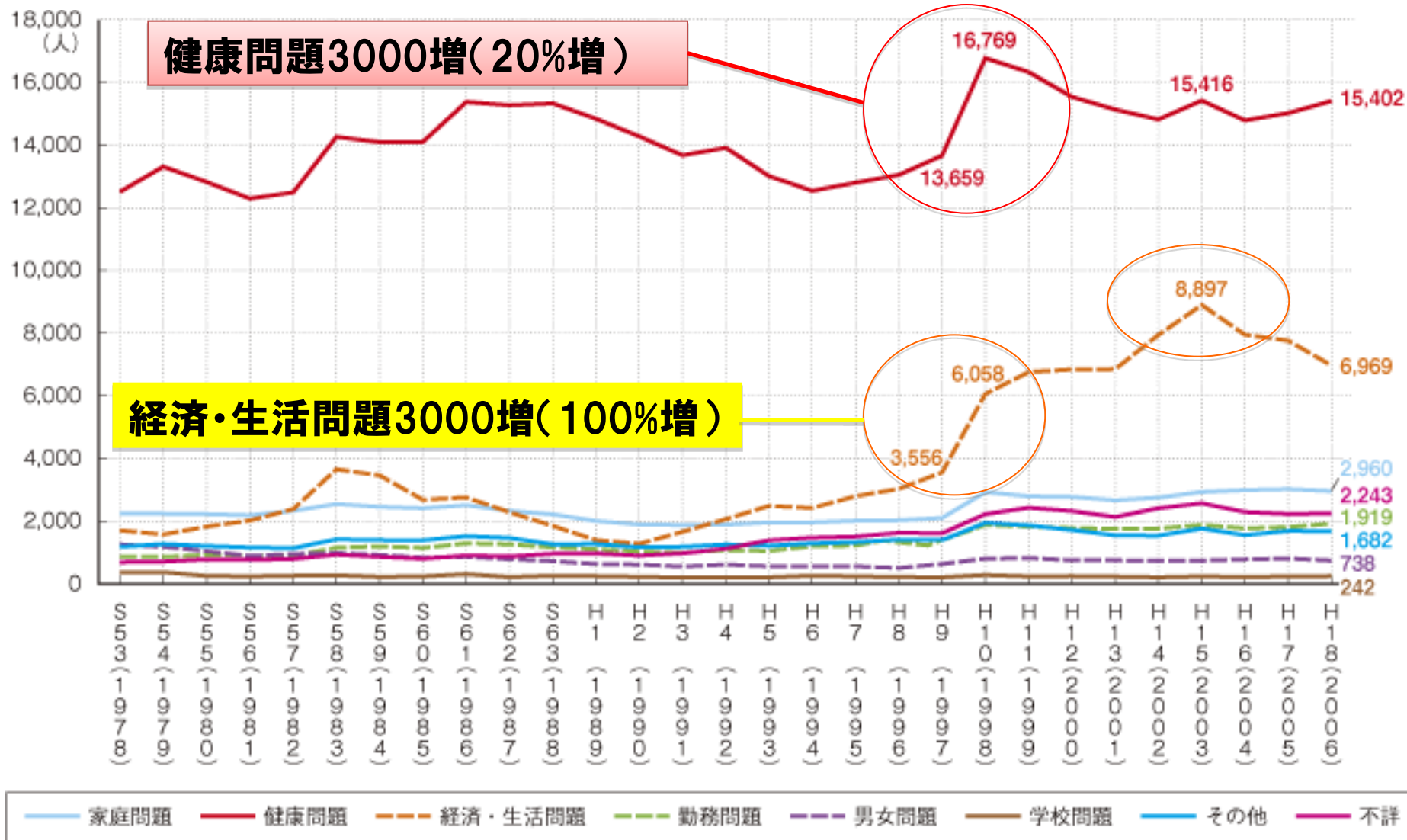
警察庁「自殺統計」より内閣府作成：平成22年度版自殺白書

平成21年における職業別自殺者数の構成割合



無職者の占める
割合が大きい

原因・動機別の自殺者数の推移



警察庁「自殺統計」より内閣府作成：平成22年度版自殺白書

なぜ自殺者数が急増したのか？

- **1998 年に自殺者数急増**
 - 特に50～60代男性、最近は30～40代に
- **離別男性のリスクが高い。**
- **無職者、経済・生活問題での増加が目立つ。**
- **北東北、南九州、山陰といった従来から自殺率の高い県で一層増加**
- **1998年：経済成長率がマイナス、求人倍率大きく低下、完全失業率4%↑、雇用保険受給者数・企業倒産件数の急増**
 - 30歳代後半から60歳代前半の男性自殺率の急増に最も影響力があった要因は、失業あるいは失業率の増加に代表される雇用・経済環境の悪化である可能性が高い。(平成18年7月 内閣府経済社会総合研究所)

日本の自殺対策「自殺大綱(H19閣議決定)」

- 自殺対策基本法(H18年施行)

- 自殺の基本的な認識

- 自殺は追い込まれた末の死
- 自殺は防ぐことができる
- 自殺を考えている人は悩みを抱えながらもサインを発している

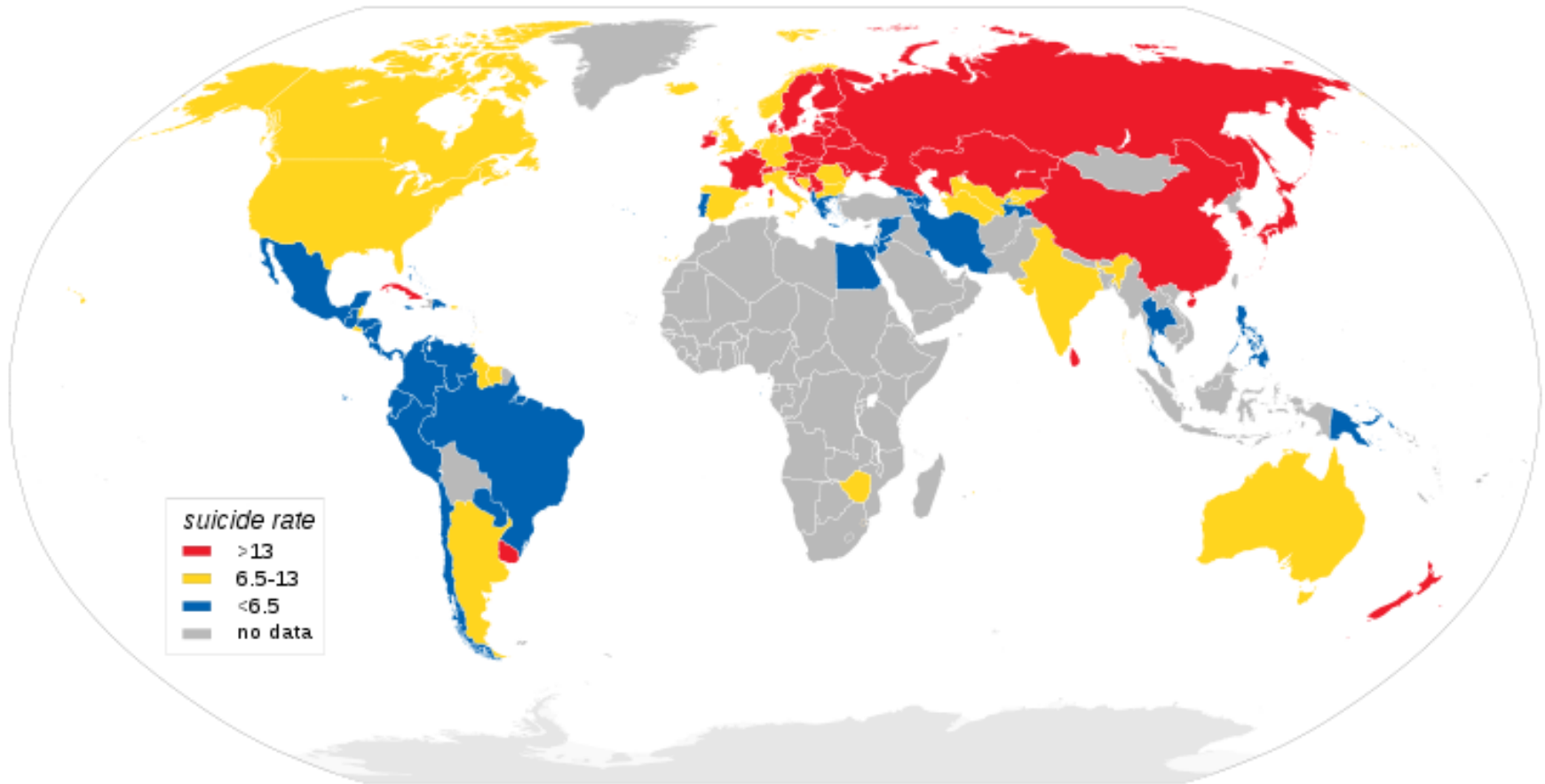
- 自殺対策の基本的考え方

1. 社会的要因も踏まえ総合的に取り組む
2. 国民一人ひとりが自殺予防の主役となるよう取り組む
3. 自殺の事前予防、危機対応に加え未遂者や遺族等への事後対応に取り組む
4. 自殺を考えている人を関係者が連携して包括的に支える
5. 自殺の実態解明を進め、その成果に基づき施策を展開する
6. 中長期的視点に立って、継続的に進める

世界における自殺(WHO報告より)

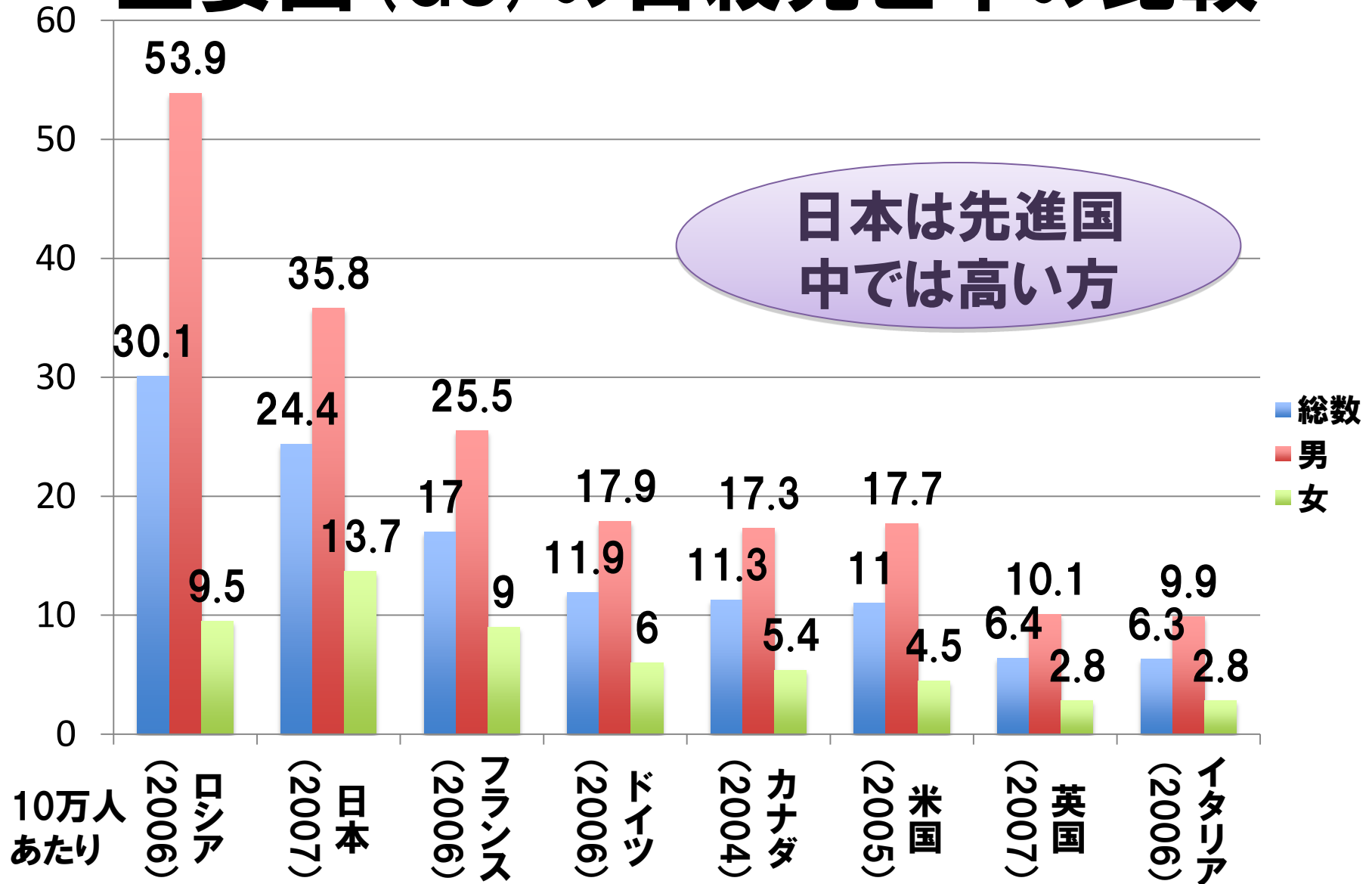
- 毎年約100万人が死亡(40秒に1名)
- 過去45年間で自殺率が60%増加
- 若い世代の主要な死因:15-44歳の3位以内
- 自殺未遂は自殺既遂の20倍と推計
- これまでは高齢男性で自殺率が高かったが、1/3の国々では若い世代の自殺率が高くなってきている
- 欧米では、うつ病やアルコール依存症などの精神疾患が自殺の主要な危険因子であるが、アジアの国々では衝動性が重要な役割とされている
- 自殺は、心理的、社会的、生物的、文化的および環境的要因が複雑に関与している

自殺率の分布(10万人あたり)



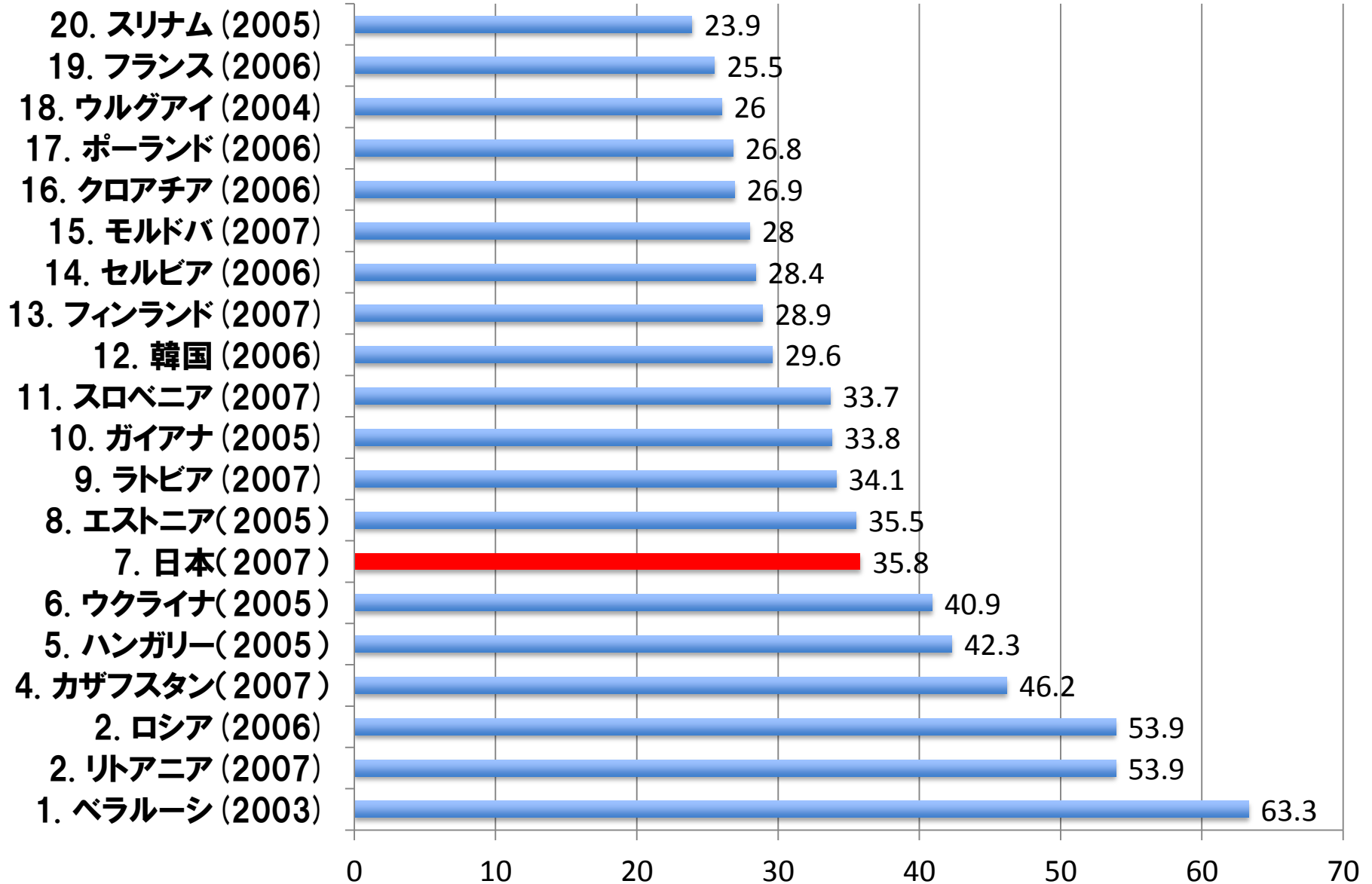
東アジア、ヨーロッパが自殺率の高い地域。南米は低い。
東南アジア、アフリカ諸国のデータは十分でない。

主要国 (G8) の自殺死亡率の比較



自殺率上位20ヶ国(男性)

10万人
あたり

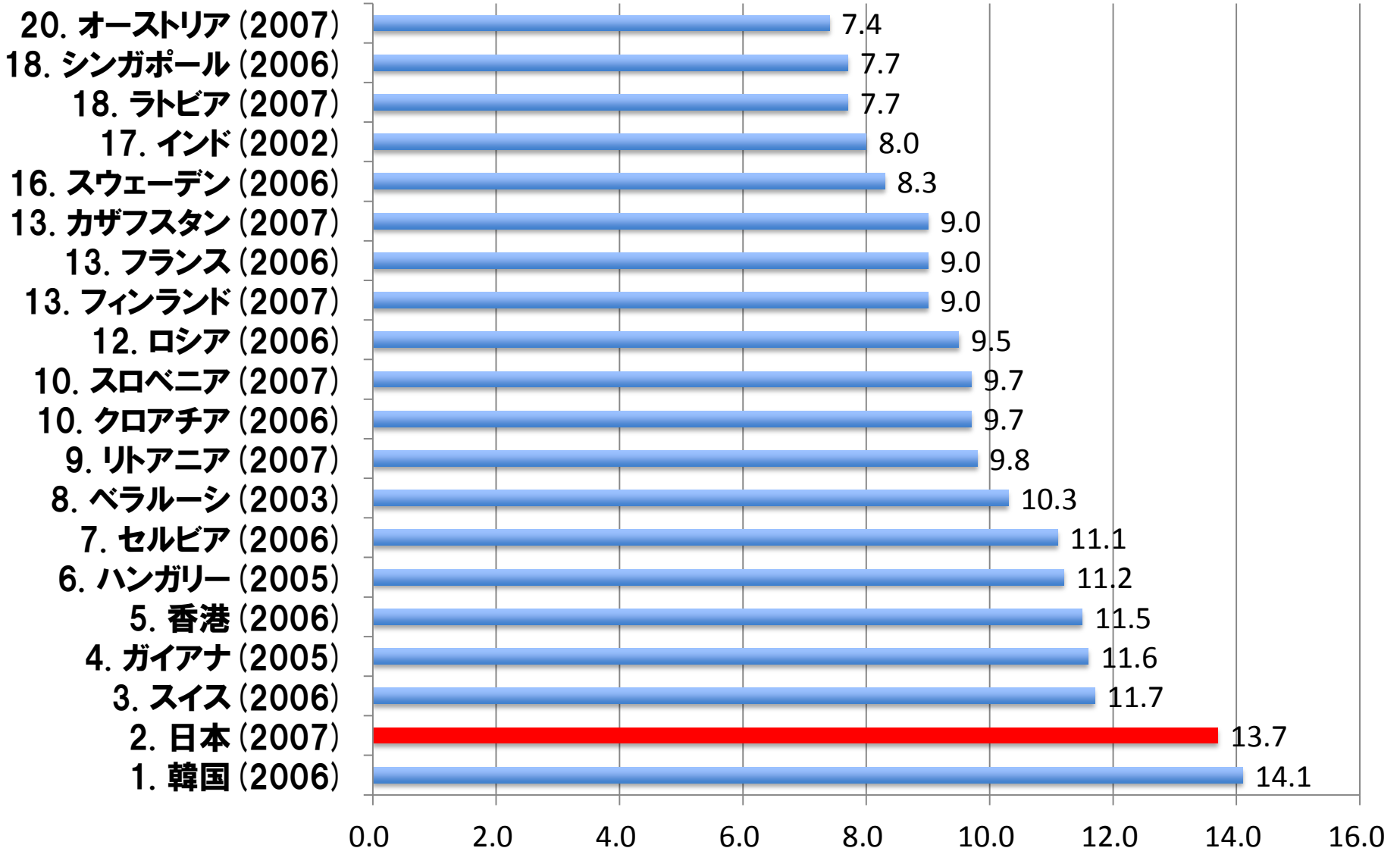


(2000年以降のデータのある国)

世界保健機関資料より内閣府作成

自殺率上位20ヶ国(女性)

10万人
あたり



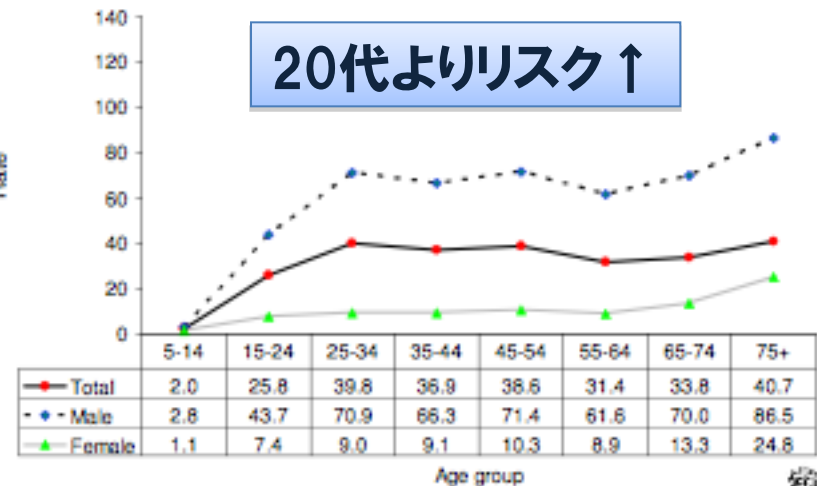
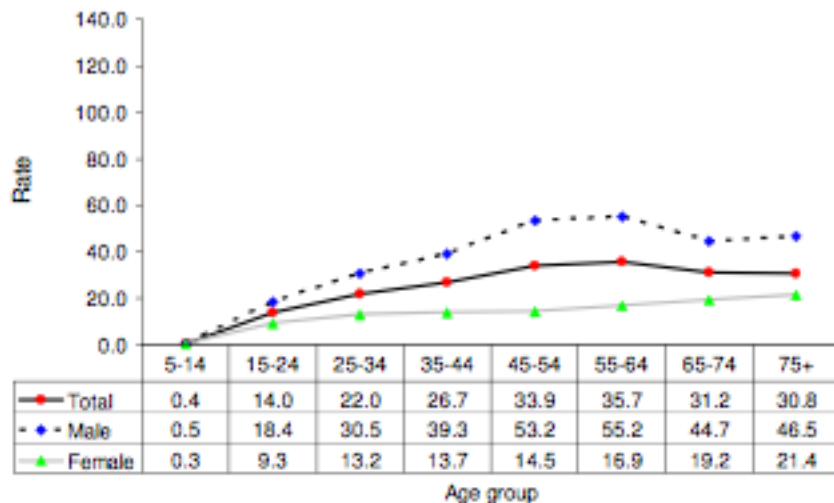
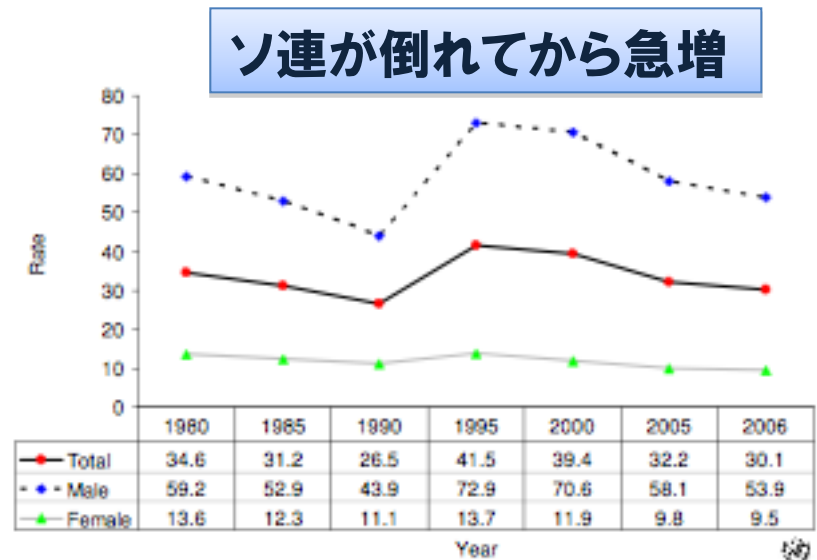
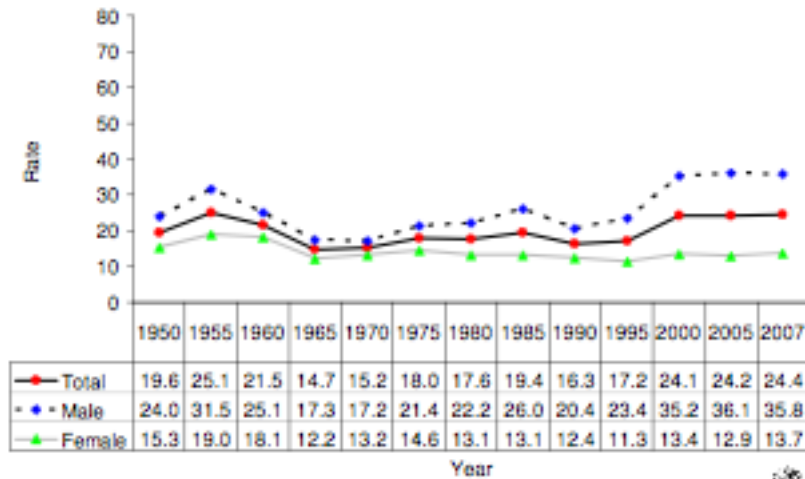
(2000年以降のデータのある国)

世界保健機関資料より内閣府作成

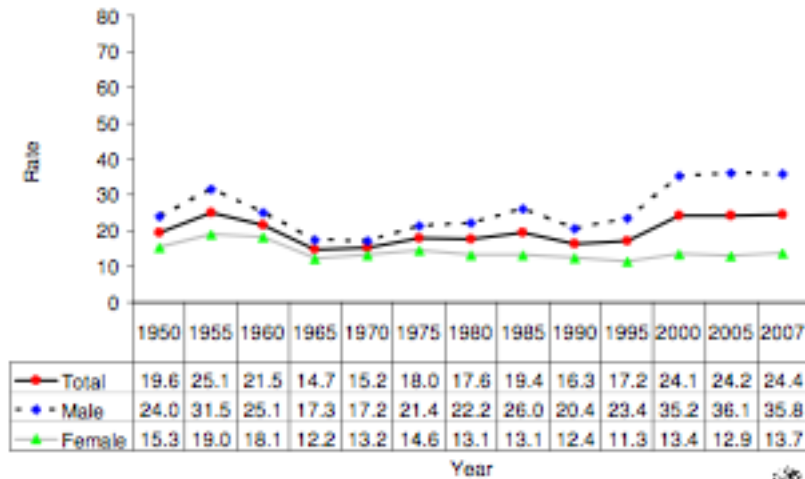
各国の自殺率の推移(WHO資料より)

- 自殺率が高い国:ロシア
- 自殺率が低い国:イギリス
- 自殺率が日本に近い国:フィンランド
- 自殺率が急増した国:韓国

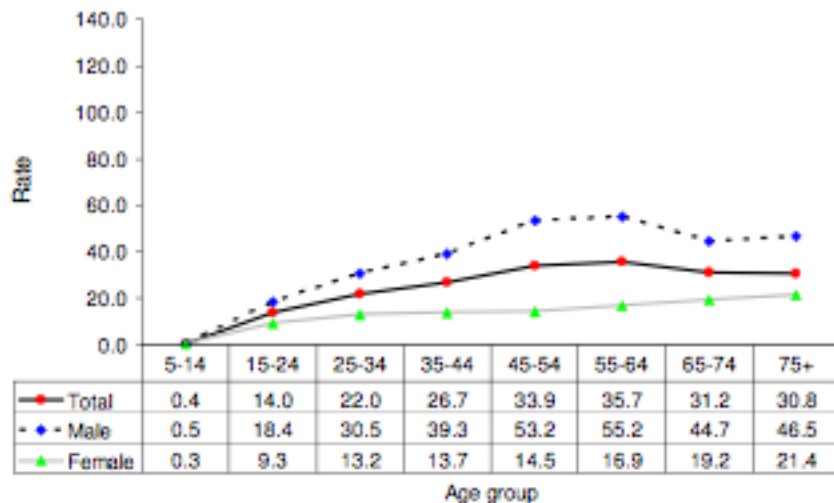
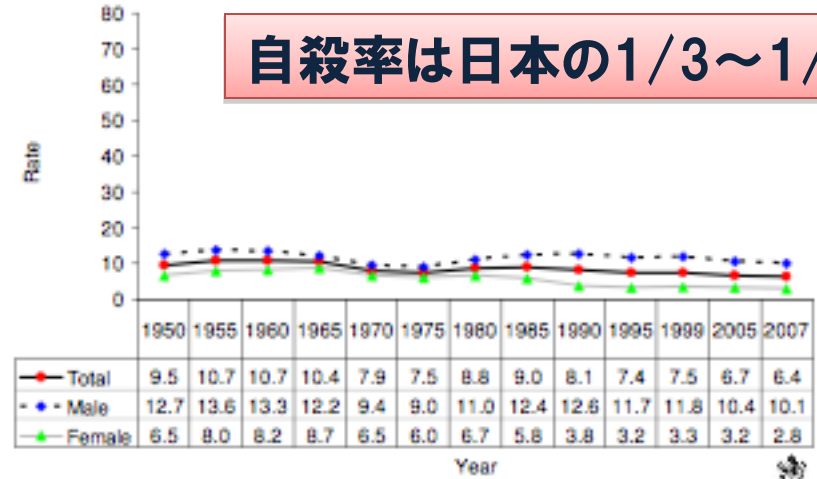
日本とロシアの比較



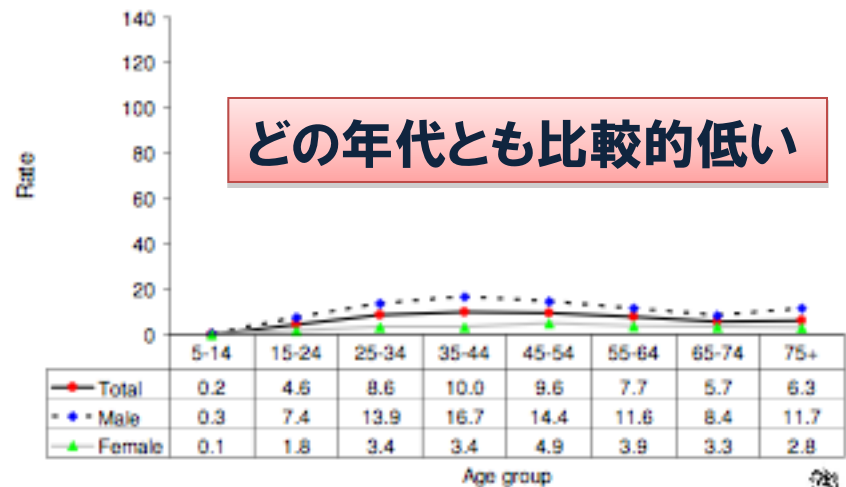
日本と英国の比較



自殺率は日本の1/3～1/4

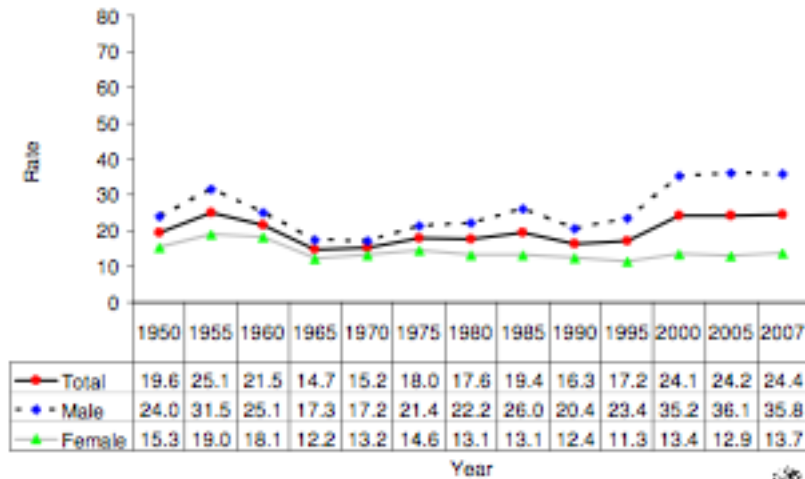


どの年代とも比較的低い

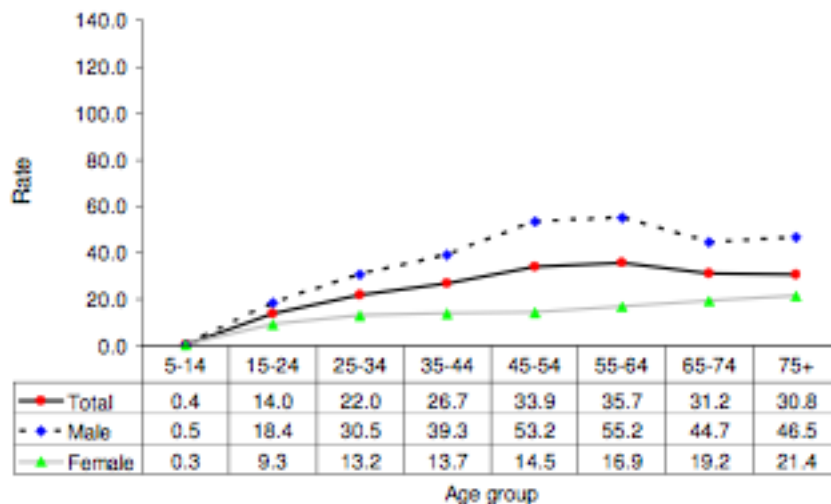
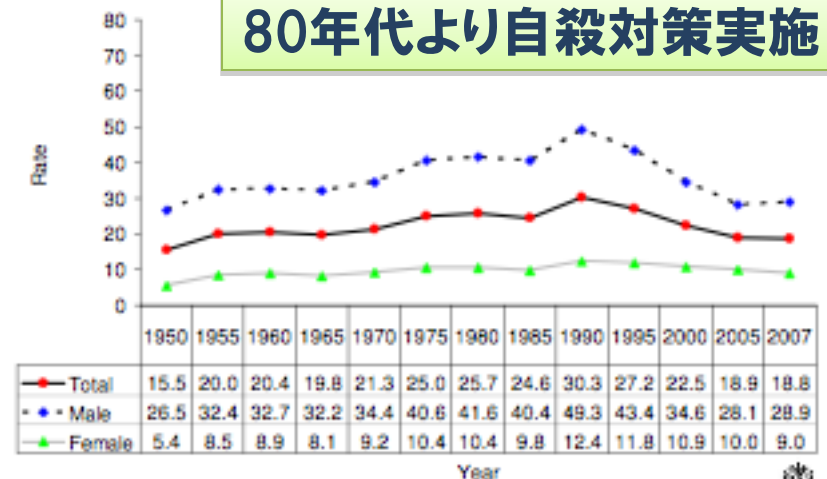


WHO, suicide prevention, country report

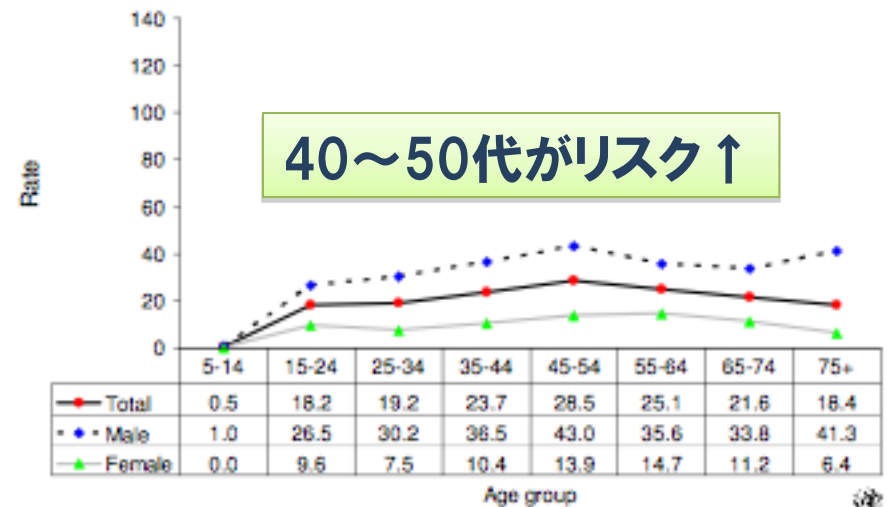
日本とフィンランドの比較



80年代より自殺対策実施

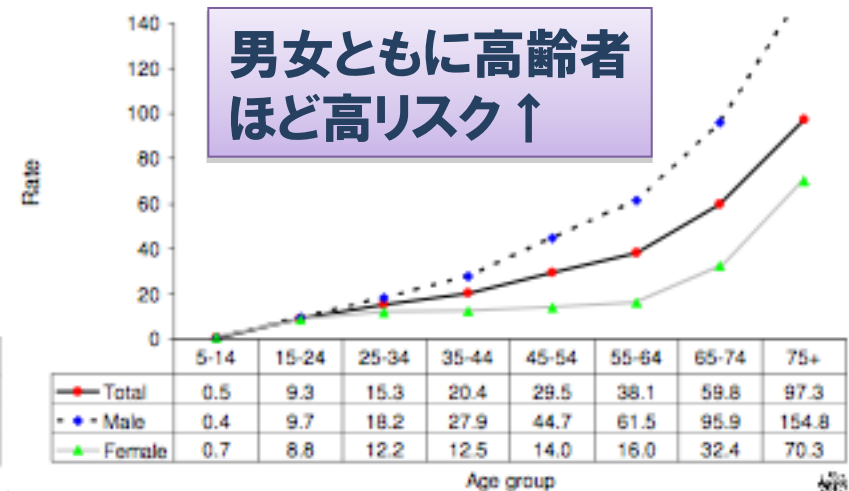
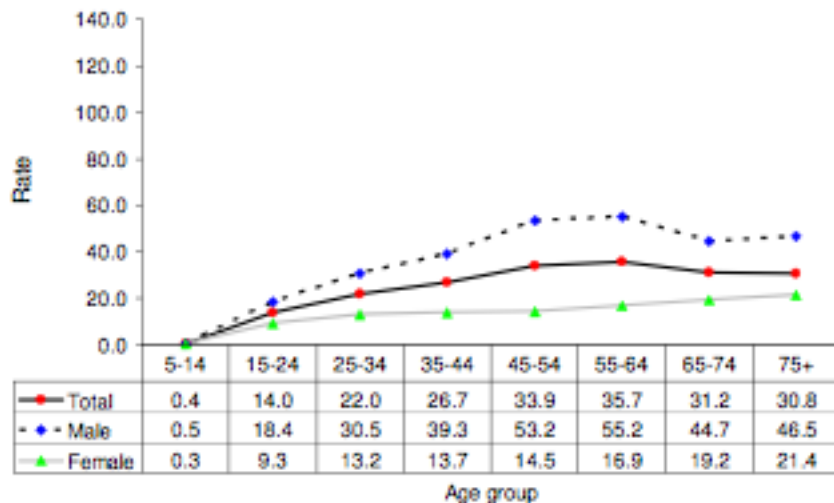
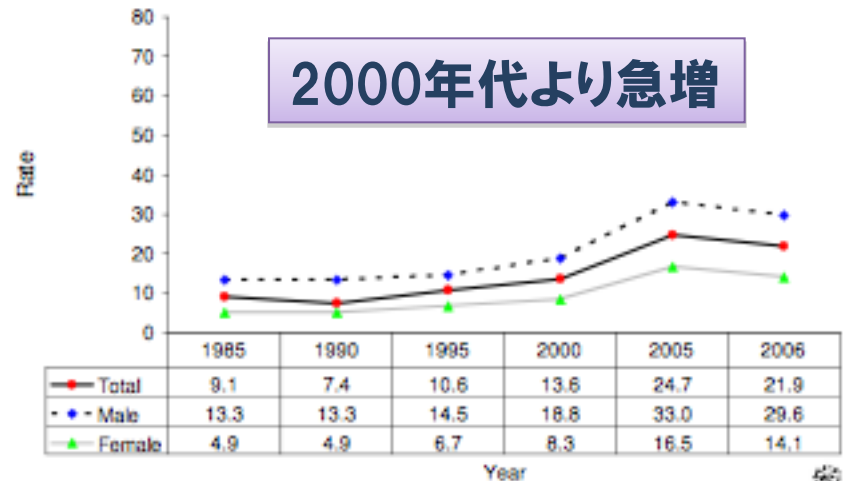
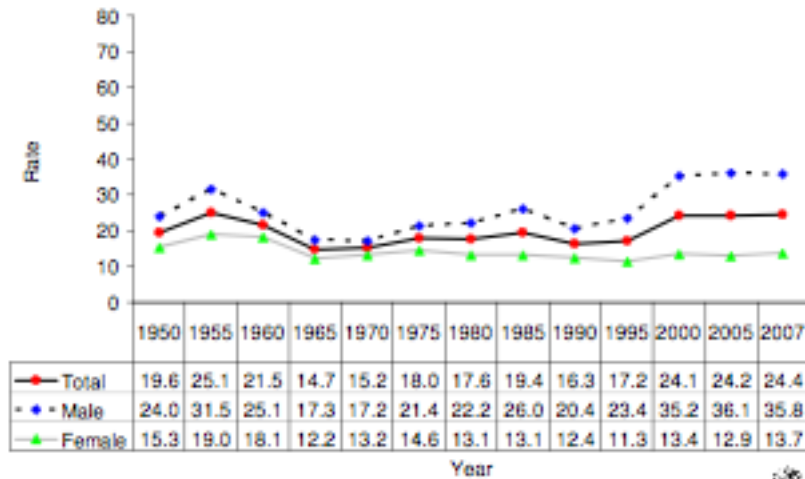


40~50代がリスク↑



WHO, suicide prevention, country report

日本と韓国の比較



日本人の自殺決定要因の特徴

OECD諸国との比較(Chen, Choi, Sawada. 2008)

- **「自殺実態白書2008―第3章自殺の社会的要因」内で日本語で詳細な解説**
- **結論**
 - 日本は、他のOECD諸国と比べて、自殺率と経済指標の関連が強く、自殺が経済的要因でもたらされている可能性が強い。

考察

- **日本における自殺率急増の原因は？**
 - 経済の悪化
 - 日本社会の脆弱性
- **自殺率とは何を示しているか？**
 - 社会で追いつめられている人々の割合の指標
- **自殺者数を減らすためには？**
 - 持続可能な社会(幸せな社会)
 - 当事者だけでなく、市民全員の課題
 - 英国はなぜ自殺率が低いのか？